

(H26.10.22 第4回 小委員会)

「新たな経済成長」分野フォローアップ 主な委員意見

(審議領域：農林水産業，観光，交流・連携基盤)

領 域	主 な 意 見
農林水産業	<p>【自立可能な農林水産業の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 県内には伸ばしていける品目はいろいろあると思うし、そういう形で仕事があれば、都市部からの中山間地域への人材の定着も進むと思う。そういう形で自立した産業として成り立つ農業の仕組みを作っていけないといけないと思う。 ○ 個々の経営体は小さくても、共有できる部分を効率化していくということは重要なメリットである。ただ、施設整備など様々な初期投資が必要ということなので、商工部門の中小企業支援制度などが活用できると良いと思う。 ○ 脱サラして新たに農業を始める場合などに、農地が分散してしまい、大規模にまとまった農地を確保できないという悩みを聞いている。一方で、荒れた耕作放棄地などもあり、農地が流動化する仕組みが必要ではないかと思う。 ○ 農業を農林水産業者だけから見のではなく、外の視点から農林水産業を活性化される取組も必要だと思う。一般の人は農林水産業にほとんど触れる機会がないと思うが、そうした中では、農林水産業をどうしていこうという視点は生まれてこない。そこを広げていくことにより、県としての施策に厚みもでてくるのではないか。 ○ 学生に対して、農林水産業で働ける、食べていけるといった情報の提供は、若い人の県外への流出も防止にもつながるのではないか。 ○ 林業については生産者や販売者の視点が強く、消費者にとっての県産材を使うメリットという視点が不足していると感じる。また、木材として使うことを中心に考えるだけでなく、燃料としての用途や水源の涵養といった他の用途や機能など、木材という視点から少し離れて広島県の森を考えることも必要だと思う。 ○ 就労の場として林業を生かすという視点で考えれば、福祉的な部分で、もう少し変わった形で成長していけるのではないか。 ○ 将来を睨み、「長く住むならこの木」というようなイメージ戦略も必要ではないか。
観 光	<p>【観光の振興】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ インドネシアやフィリピン、ベトナムのビザの免除などの規制緩和が行われている。外国人を広島に呼び込むために、平和貢献の分野とも重複するが、国際会議の誘致を検討してはどうか。MICEのための施設を作って誘致するのではなく、歴史的建造物、例えば厳島神社や護国神社、広島城を使って国際会議などを誘致してはどうか。ディオールがルーブル美術館を使ってパリコレをやったように、広島発のコレクションでもよいと思う。

領 域	主 な 意 見
	<p>○ 「おいしい！ 広島県」 やがん対策のデーモンはどうなるのかと思っていたが、他県の人からは、「広島県は元気があって良い」と言われる。好印象のうちに次の施策を打って、外国人も観光しやすい観光地づくり、英語での案内など、引き続き目玉となるものを打ち出してもらいたい。</p> <p>○ 呉市豊町の御手洗は重要伝統的建造物群保存地区に指定されて、自分たちがガイドをやるようになってからは、住民たちが外の人に自分たちの町のことを説明したいという思いになっている。県民にとって観光の振興とは、世界遺産だから良いということなのか、お金を落としてもらえればよいのか、もっと違うことがあると思う。観光・おもてなしというよりは、広島県としてどういうポリシーで誰に対して、どのような形で来てもらい、それが県民の幸せや誇りにつながる、それが来た人にとって価値を生むといったことが、後期の計画の中にエッセンスだけでも盛り込めると良いと思う。</p> <p>○ 中山間地域と観光がいつも離れているように思う。中山間地域について、地元の人が、わが町、わが村を見直して、良さを再認識するという視点もあって良いと思う。また、中山間地域をルートとして通るだけでなく、田舎の暮らしに触れることが重要で、地域の人や観光客同士が交わるようなイベントがあってもよいと思う。三次や庄原には観光農園で良いところもある。修学旅行やツアーに組み込むと、将来住みたいと思う人も出るかもしれない。</p> <p>○ 観光については、住んで魅力があり、外から来た人にも魅力があるということ。2点目は、来てもらって金を落としてもらい、雇用の確保につながることから、雇用創出、輸出産業として観光は重要であること。また、3点目は、来てもらって、国際理解を深めながら、国際貢献につなげるという大きな目標も掲げることができるだろうということ。そして、産業連関の視点が弱いので、地産地消だけでなく、商売、工業、宿泊なども含めて産業連関の仕組みも併せて検討する必要があると思う。</p> <p>○ どんな人に来てほしいのかが大事。どういう人にどういう町だと思ってもらいたいのか。普通、ビジネスなら弱いところは切り捨てる。強いところを伸ばして、その波及で弱いところも持ち上がってくれば良いと考える。県と経営は異なると思うが、どんな人に来てほしいかを定義する必要がある。</p> <p>○ イタリアの田舎の人でも、みんな広島という地名を知っている。うまく呼び込む仕組みが必要だと思う。また、平和で人が来るならそこでビジネスを作らないといけない。広島に行くと何か平和のヒントが得られるということになれば多くの人に来てもらうと思うが、そこまでのコンテンツがあるかと言えばスポットでしかなく、周りと連動していない。空港には平和都市の香りはない。そういうことが生み出せていないことが観光の弱さだと思う。一度見たらそれで済む。スフィンクスを見てもその後の発展がないのと同じであり、そうならないようにしていく必要がある。</p>

領 域	主 な 意 見
交流・連携基盤	<p>【港湾施設の機能強化】</p> <p>○ 競合する他県の港湾もそれぞれが強化を図っている中で、同じ土俵で戦っていくのは難しいと思う。県として、投下する費用と得られる効果を考えた時にどうなのか、企業にしてみると、例えば、神戸港に運んで物流コストはかかっても、それ以上に、関税とか検疫の手続きが24時間、しかも簡素ということであれば、利用する可能性もある。それを無理に混ぜ返して下げるまでのメリットがあるのか分からない。ターゲットをはっきりさせる必要があると思う。</p> <p>【ゲートウェイ機能の強化】</p> <p>○ 企業誘致や国際会議の誘致、グローバルということを掲げていながら、空港までのアクセスに対するイメージが悪く、それが心のバリアになっているのではないかと思う。空港アクセスの改善が難しくても、空港に着いたときに、広島に着いたら驚くようなことがあるとか、そういうことで何か工夫しないと、国際会議の誘致とか難しいのではないかと思う。</p> <p>【県内大学の地域貢献】</p> <p>○ 広島大学が日本の中の10校のスーパーグローバル大学に採択されて、外国人留学生が3倍増えるといった状況で、その学生の就労先や就職先を考えた時に、県内でこういう仕事ができるとかいうことをマネジメントの中でリンクさせて見せることによって、交流もできて、産業もできて、あるいは外国の方が広島に定住するということも考えられるかもしれないので、広島大学に限らず、県内大学と広島県との情報交換など、連携が必要である。</p>